

# 文芸きくち

## 万句の里俳句会 11月例会

情熱の色冷めやらす鶏頭花  
隅々もねんごろに掃く神むかえ  
挽ぐ毎に袖子の香りの漂へり  
落葉して落葉して山軽くなる  
石路咲きて無住寺ほのと華やげり

光本とよいち  
田中 美智  
宮本 敏子  
隈部 輝子  
宮本 雅子

## 七城短歌会 11月詠草

登り来し龍ヶ岳なる展望所眺むる島々緑に映ゆる  
黒豆の熟れしを穫りいて来合わせる友に分ちぬたねを選び扱ぐ  
鞆智城城址に立てば吹く風の防人達の声かと聞こゆ  
約定を守るやうにぞ立冬の山茶花咲き初む薄くれなゐ色  
入りつ陽は真っ赤に燃えて帰路にある我家並みに吞まれて行きぬ

嶋田 晴美  
緒方 寛子  
緒方 正俊  
山田 博  
高木 精

## せせらぎ俳句会 11月例会

器量よき大根を揃へ買いにけり  
おでん鍋囲み孫との夕餉かな  
友招き小さな茶話会柿贈  
三十年の菊展終る平成も  
雪便り添へて林檎の届きけり

藤本アツ子  
森 正子  
寺本 和子  
藤本 邦治  
服部 静子

## 「里」短歌会 11月詠草

両の手を大きく振りて見送ればひらひら返す孫は小さき手  
空覆ふ雲の切れ間の夕の陽をしばし見とる冬のいちにち  
庭の奥凍として立つ石路の花の黄金に木漏れ日遊ぶ  
躑躅の木無惨に剪られし一枝を花器に活ければ床の静まる  
葉の落ちし柿の木の枝に触れながら感謝言ひつつ来る年を待つ

坂本 玲子  
緒方 悦子  
松本 和子  
岩本サヨ子  
安見 朱實

## 旭志文芸教室俳句の会 11月詠草

草取りもクライマックス草紅葉  
秋桜子らの下校や午後三時  
三十人心ひとつに踊る秋  
アンダンテ夫唱婦随に秋の暮  
庭隅にひそと咲きたるつわの花

水谷 ミネ  
芹川 蓉子  
稗田 達恵  
中尾ヨシコ  
芹川のり子

## 溪流短歌会 12月詠草

ひっそりと垂るる朱実の烏瓜光を曳けり日照雨降る時間  
西空に傾く夕日浴びながら歌った聞いた家路もラララ：  
稔りゆく稲穂日ごとに色かさね黄金の穂波遙か広がる  
湯の町を訪ひ一人歩きゆく夫生れし町森閑として  
大杉の幹の太さに感動し国造神社二礼二拝す

中川 愛子  
堤 よしみ  
岩根 博恵  
山城 雅子  
田中 遙子

## 肥後狂句水笑会 11月例会

困らする わざと間違ひして出さず  
暖房不要 今 四十度熱のある  
大掃除 家のまわりもせにゃんばな  
大掃除 障子はがしは子の係り  
困らする そこば右さん左折して

柏原 乗仏  
井手 水光  
御手洗三代  
宮上 美由  
山隈 好茶

## 菊池短歌会 12月詠草

ふるさとの鞍岳も見ゆ近景に夕陽に光る町今日のカメラアングル  
曙のほのか紅さす東の鞍岳の朝は唯ありがたき  
軒端なる古くもの巢にもみぢ葉のひと葉かかりて山家しぐるる  
元朝の湯に日の射せば七〇歳の手を身に寄せて小さく祈る  
皇后杯制した友を描きたり未熟の筆に描いては消して

古賀 勝士  
中川 愛子  
怒留湯健蓉  
安藤 則子  
川口すみ子

万句の里俳句会  
せせらぎ俳句会  
旭志文芸教室俳句の会  
肥後狂句水笑会

井芹 ☎090(1342)2151  
藤本 ☎0968(38)4087  
中尾 ☎0968(37)2578  
山隈 ☎0968(38)2051

七城短歌会  
「里」短歌会  
菊池短歌会

佐々 ☎0968(24)3761  
／溪流短歌会  
木原 ☎090(5284)2418  
安藤 ☎0968(25)4285

入会希望など詳しくは、  
それぞれの句会や歌会  
にお尋ねください。